

自立し、互に関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して

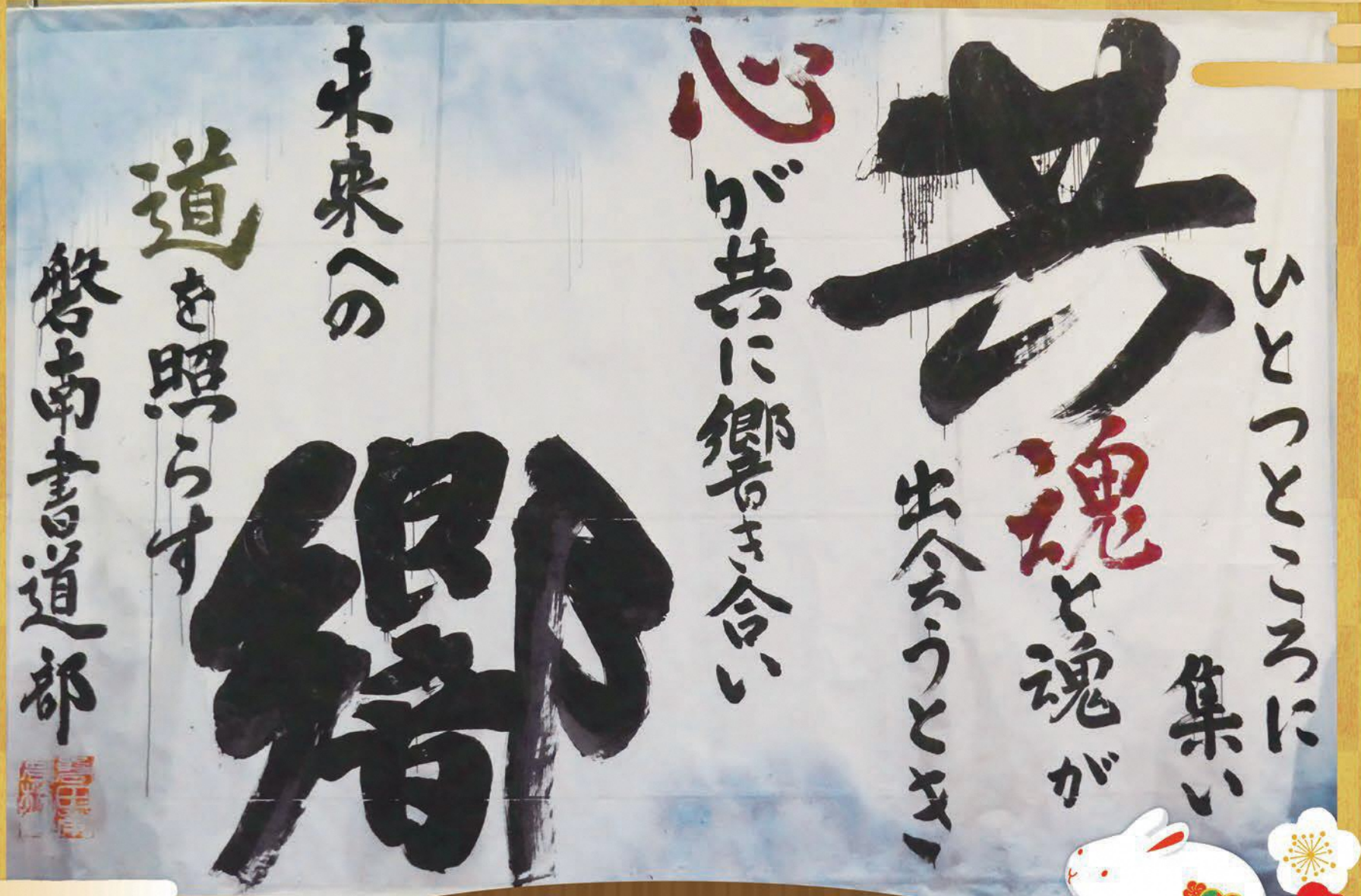


Eジャーナルしずおか



令和5年(2023年)
1月5日
木曜日
第255号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3674 FAX 054-221-3561 E-mail kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp



今回は磐田南高等学校書道部の皆さんに

書道パフォーマンスつきで執筆してもらいました!

今年度100周年を迎えた、磐田南高校。その書道部は毎年12月に行われる静岡書道パフォーマンスアワードの常連校です。今年度は、昨年度に引き続き2年連続で2チーム出場し、見事銀賞を受賞しました。今回の作品もパフォーマンスつきで執筆していただきました。



パフォーマンスの様子をぜひ、こちらからご覧ください!!



学び舎はまだコロナ禍の影響下にありますが、私たちは次第に感染拡大防止に留意したウィズ・コロナの学校生活を確立しつつあります。対面での学校行事も少しずつ復活してきました。

3年前にはあまり現実的でなかったオンラインでのコミュニケーションは今や当たり前の光景となり、意思疎通を図ること自体は必ずしも対面でなくとも成立します。しかしやはり、人と人が同じ空間に身を置き、直接対面して交流することで、はるかに多くの情報を交換できるし、そのみならず、互いの気持ちが通じ合い、心が共に響き合うような場面もあるのではないのでしょうか。そんなコミュニケーションを大切にしていきたいと思います。

静岡県教育委員会 教育長 池上 重弘

【教育政策課】

実践NOTE 507

子供たちの手による“もっと”楽しい学校づくり

～「ワクワクを創る子」の育成～

川根本町立本川根小学校 教諭 鈴木 達也

ワクワクづくりの要は全校委員会

本川根小学校は、全校43人の小さな学校です。昨年度は、「楽しい学校づくり」、本年度は「もっと楽しい学校づくり」を合い言葉に、児童主体のワクワクな学校づくりを進めています。



ワクワクづくりの要「全校委員会」

ワクワクづくりの要はなんといっても「全校委員会」です。全校児童で話し合い、1年間のスローガンや学校行事の内容などを決定しています。子どもたちは自分事として、学年に関係なく進んで発言し、「大切なことは自分で決める」が本川根小学校の当たり前になっています。

活動の主役は全校児童一人一人

学校行事は、学級ごとに役割が分担されたり、全員が専門部に所属したりするなど、一人一人に輝く場があります。



全校児童で運営する「小中合同体育大会」

全校児童参加の「やまびこサマー教室」は、1年生がはじめの会とおわりの会を担当しました。入学して2か月とは思えない堂々とした運営ぶりで、上級生を驚かせました。また、「小中合同体育大会」では、低学年も高学年に混じって、開会式の運営をしたり、競技の実況をしたりするなど、中学生に負けじと大活躍をしました。どの活動においても主役は児童一人一人です。



筆者

ミッション! 募れ、本小応援団

「やまびこサマー教室」の午前の活動は、ふろさとウォークラリーです。子どもたちが考えたミッションは、本小応援団を募ること。地域に飛び出した子どもたちは、たくさんの応援団を集め、笑顔で学校に帰ってきました。



本小応援団を募る「やまびこサマー教室」

11月の体育大会前には、全校一人一人が応援団の皆様へ招待状を書きました。当日、たくさんの方に足を運んでいただき、温かな声援をいただきました。今後も本川根小学校の応援団が地域全体に広がっていくことでしょう。

異色のワクワクづくりは現在も進行中

修学旅行の行き先や内容も子どもたちの「思い」で決めます。校長室や参観会で、自分が行きたい場所の魅力を全員がプレゼンしました。熟議の結果、行き先は長野県に決定。細かな行程も自分たちのこだわりで考え、ワクワクな2日間を創りあげました。



修学旅行の行き先プレゼン大会

7月には1・2年生の提案による夏祭りを開催しました。金魚すくいやお化け屋敷、ダンスなど、各学級の工夫した出し物も加わり、それぞれのよさがミックスされた特別な時間となりました。本川根小学校のワクワクな「もっと楽しい学校づくり」は、現在も進行中です。

実践NOTE 508

遊びは『子ども発・大人経由・子ども着』

牧之原市立地頭方幼稚園 教諭 菅沼 恭子

継続した遊びの充実を

本園は子どもの思いから始まった「子ども発」の遊びを大切に、保育者が子どもの表れから思いや願いを多面的に捉え、育みたい資質・能力を明確にして環境構成や援助を行う「大人経由」、子どもが思いを実現しながら遊びを展開し、満足いくまで遊ぶ「子ども着」を保育の根底に据えています。



園内研修の様子

生き物大好き!

園庭や少し歩いて園外に出ると沢山の生き物に出逢う事ができ、子ども達は名前を付けて飼い方を調べ飼育しました。生き物の本を部屋に沢山出しておくと「やってみよう」「あれ うましくない こうする?」と友達と試行錯誤しながら、テントウムシが糸を渡る姿を見ました。ザリガニを見つけタモで捕まえようとすると水が濁ってしまい、肉を付けて釣ってみる事に。始めは慌てて竿をあげ、逃げられてしまいましたが糸から伝わる餌を引く絶妙な感触を感じ「来た!」とそつと釣り竿を持ち上げるようになりました。カタツムリの餌は家から野菜の端などを持ってきて包丁で切って串に刺し、生きた虫を食べるアマガエルやカマキリにはハエやバッタを夢中になって捕まえて、飼育ケースに入れるのも一苦労。



テントウムシの綱渡りにチャレンジ



ザリガニが釣れたよ!

そつと見ていると勢いよくハエに飛びつくカエルの姿やバッタをムシヤムシ食べるカマキリに「わあ～今見た?」と顔を見合わせて驚き、生きていくための厳しさも感じていました。飼育する中で逃げる、赤ちゃんが生まれる、動かなくなってしまうなど目にします。休日前は相談して交代で持ち帰って世話をすることで、ずっと飼っていたい、逃がした方がいいなど意見が出て、生き物の生命について考える場にもなりました。「きれいにするよ」と気付いて水替えを行い、生き物がクラスの一員となりました。私自身も初めて見たり試してみる事ばかりで、子どもと共に考えたり驚いたりする毎日でした。自然豊かな地域だからこそできる体験を通して多くの事を学び、地域の良さを感じました。



見やすいように設置した生き物コーナー

遊びを通しての育ちを...

「8人のクラスなら、保育者が9番目の子どもになって遊び、方向づけをしていくこともありだよ」とアドバイスしてもらった事があります。共に遊び、何に興味を持ち楽しんでいるのか、どうしたいのか、どこに躓いているのかを姿や言葉から読み取り、保育者が意図する環境構成や再構成を行うことで、子ども達が自ら遊びを創り出していきと思います。遊びを通して必要な経験が得られるよう、ねらいや課題、育ちを明確にし、恵まれた自然環境や小規模園ならではの良さを生かしながら、子ども主体の継続した遊びを大切にしたいです。



カタツムリの餌を準備中

45組の団体・個人を表彰!

静岡県教育委員会表彰を実施

静岡県教育委員会では、教育の振興に貢献した方や、スポーツ・文化等の分野で全国規模の大会に出場し、最高位の賞を受賞した個人・団体の功績を称えるため、「**静岡県教育委員会表彰**」を実施しています。

今年度は、45組が受賞し、11月16日に県庁で表彰式を開催しました。

受賞者を代表して挨拶した、河原崎さんは、ICT Conference2021の経験により、対話をする事の重要性について語られました。

教育・学術の振興に貢献

全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表大会で最優秀賞を受賞した、**静岡県立焼津水産高校**を表彰しました。

静岡市用宗地域に生息する海藻で「じゃまもく」と揶揄され厄介者扱いされていた「アカモク」に着目し、実習で学んだダイビング技術等を生かしたフィールド調査や、商品開発など地域産業の活性化に貢献されました。

スポーツ・文化等で大活躍

全国中学校体育大会第53回全国中学校サッカー大会で優勝した**浜松開誠館中学校サッカー部**や第39回NHK杯全国中学校放送コンテストで最優秀賞を受賞した**間久さん**など、多くの児童生徒がスポーツ・文化分野で素晴らしい功績を残しています。また、人命救助をした**石間さん**を表彰しました。



令和4年度全国高等学校総合体育大会
ボート競技大会女子シングルスカルで優勝した高橋さん



第16回全国高校生大作書道展で文部科学大臣賞を受賞した秋原さん



JOCジュニアオリンピックカップ2021 全国コース選抜マウンテンバイク大会
小学4年生 男子の部で1位を獲得した田畑さん

今年度表彰された方を**ホームページ**で紹介しています。
ぜひご覧ください! HPはこちら!

<http://www.pref.shizuoka.jp/kyouiku/kk-010/iinkai-hyoushou.html>



【教育総務課】 TEL 054-221-3155

令和4年度「読書県しずおか」づくり 優秀実践校及び優秀実践団体決定!

静岡県教育委員会では、読書活動の推進において特色ある優れた実践を行っている学校や、団体・個人を顕彰しています。本年度の被表彰者については、以下のとおり決定しました。

「読書県しずおか」づくり優秀実践校

小学校の部 下田市立大賀茂小学校

日課に全校での読書活動を位置づけ、学校司書や地域ボランティアなどと連携し、年間を通して多様な読み聞かせを実施しています。また、中学校区において、読書週間に親子読書等を推進し、保護者に家庭における読書活動の重要性を啓蒙しています。

高等学校の部 県立浜名高等学校

図書委員が主体となって、ビブリオバトルを企画・運営し、図書館に関連コーナーを作り展示しています。また、ブックカバーの製作や配布、古本市や雑誌譲渡会の実施、店頭購入等、生徒が読書の楽しさを感じられる取組を実施しています。

中学校の部 牧之原市立榛原中学校

図書委員のリーダーシップのもと、全校生徒が読書に浸る週3日間の朝読書を20年以上継続しています。また、日常の学校図書館利用促進のため、図書館前の掲示や推薦図書の紹介、図書館だよりの発行を継続して行っています。

特別支援学校の部 県立浜名特別支援学校

外部人材によるおはなし会、中学部での生徒による読み聞かせ、高等部での全校放送や自主製作動画による読み聞かせを実施しています。また、移動書架の設置や図書飾り棚の制作を行うことで児童生徒が本をより身近に感じる取組を実施しています。

「読書県しずおか」づくり優秀実践団体

音読グループ「つくし」(函南町)

町内の図書館や小中学校、様々な社会福祉施設等で読書活動に携わっています。また、グループ内の文庫では、資料が自由に閲覧・貸出できるため、他の団体や施設等が活用し地域において新たな本との出会いや読書活動の広がりにつながっています。

西奈おはなしはらっぱ(静岡市)

26年間継続して西奈図書館でおはなし会を開催し、長きに渡って子どもと本を繋いでいます。また、近隣の小中学校や公共施設においても活動し、郷土の伝説を紙芝居にして語り伝えるなど地域に根付いた語り部の役割も担っています。

令和4年11月14日(月)
教育長室にて表彰式を行いました



受賞おめでとう
ございます!

【社会教育課】 TEL 054-221-3160

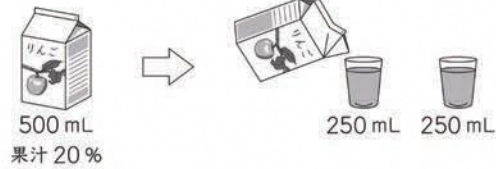


「全国学力・学習状況調査」にみる算数・数学科授業改善のポイント

今年度の調査結果の分析から、静岡県の子供の傾向として、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題が見られました。

小学校算数で実際に出た問題(令和4年度)

【出題の趣旨】数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる。



250mLは、500mLの $\frac{1}{2}$ の量です。
飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合はどうなりますか。

(紙面の都合上、調査問題の一部を変更、省略して示しています。)

ポイント 日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるようにする



生活経験を基にした判断

生活経験を基にした判断と、飲み物の量に対する果汁の量の割合を計算で求めた結果を、関連付けて考えることができるようにすることが大切です。

計算で求めた結果

【総合教育センター】

障害のある人もない人も一緒に楽しむ芸術祭です

多様な作品をぜひご覧ください

ART FOR ALL アートはみんなの中に。

ふじのくに芸術祭優秀作品展と障害者芸術祭(東部会場)を同時開催します。ご来場お待ちしております。



優秀作品展 展示作品(一例) 『秋彩の里』(油彩画)



障害のある人の作品(一例) 『希望の一本松』(日本画)

入場無料

日時 令和5年2月10日(金)~12日(日) 10:00~17:00

※最終日は14:00まで ※障害者芸術祭の初日は14:00スタート

会場 コミュニティながいずみ (駿東郡長泉町下土狩1283-11) ※JR下土狩駅より徒歩1分

見どころ① 優秀作品展

公募作品(美術・書道・写真)から厳正な審査により選ばれた入賞作品など77点を一度に鑑賞できます。

見どころ② 障害者芸術祭

障害のある人の作品展や、障害の有無に関わらず参加可能なワークショップなど、誰もが楽しめる企画を行います。

【文化政策課】

学校広報プロジェクト第4弾

三島南高校

教科横断型授業 保育実習

~白玉粉を用いたパーティ料理~

教育委員会広報プロジェクトチーム「広報PT」が、三島南高校へ取材へ行きました。三島南高校の生徒が、近隣の幼稚園児を学校に招き、食育と科学を組み合わせた、教科横断型授業「白玉粉を用いたパーティ料理」を行いましたので、その様子をお伝えします。

1 元元よく幼稚園児たちが家庭科室へ入り、早速パーティ料理作りの開始です。本実習の進行や園児への説明はすべて高校生が考え、園児と協力し白玉ゼリーを作りました。



2 白玉ゼリーの調理後、白玉粉や小麦粉に水を加えるとなぜ団子ができるのか、同じ白い粉である塩や砂糖ではなぜお団子ができないのかなどを、園児たちにわかりやすいように、紙芝居や寸劇で説明していました。



先生の思い 家庭科:高橋先生

園児たちが食事を作ったり、共に食べる楽しさを感じたりすることで、改めて食べ物に興味・関心を持って欲しい。また、高校生が幼児とともに調理するためのプランを作成し交流することで、幼児への理解を深めて欲しい。

理科:渡邊先生

生徒には、園児がわかるような説明を心がけるよう伝えた。原理や仕組みを理解しなければ、わかりやすい説明はできないため、探究的な学びの場として、いい機会でした。

生徒の声

- リハーサルを何度も繰り返した。どうやったら楽しんでもらえるか、危険なく調理できるかなどを考えながらプランを作った。試行錯誤を重ねた結果、全員で楽しく調理ができて良かった。
- お団子を作ったり、調理をする楽しさだったりを感じてくれると嬉しい。
- 白玉の色づけがキレイにできて、園児たちが喜んでくれて嬉しかった。

編集後記

高校生が、手際よく園児を誘導し、全員が楽しそうに調理をしていたことが印象的だった。また、園児が知っているであろうキャラクターを用いて、お団子が丸くなる理由をわかりやすく説明しており、園児たちも納得した様子で聞いていた。小さい子を納得させるためには本質を理解しなければならない。生徒たちはよく勉強し、伝えやすさ・わかりやすさについて深く考えたであろうことが容易に想像できた。



▲料理作りの様子

【教育政策課】

お詫び

Eジャーナルしずおか12月号1面について、一部内容を差し替えました。こちらからご確認ください。



令和5年度「グランシップ子どもアート体験!学校プログラム」

広告

申込受付中!

グランシップでは、国内外の第一線で活躍する芸術家とともに県内の小中学校や特別支援学校に出向き、子どもたちに本物の文化芸術をお届けするアウトリーチ事業を実施しています。現在、令和5年度の実施希望校を募集しています。音楽や伝統芸能、美術など多彩なプログラムをご用意。詳しい募集要項や応募用紙は、全小中学校、特別支援学校に郵送しています。また、グランシップホームページ(右記QRコード参照)からもご覧いただけます。不明な点は、メール・電話にてお問合せください。

まもなく締切、是非ご検討ください!

応募締切:2023年1月31日(火)



【募集プログラム】●グランシップ登録アーティスト ミニコンサート ●「人形浄瑠璃 文楽」出前講座 ●狂言ワークショップ ●六代目宝井馬琴監修 講談教室 ●玉川奈々福の浪曲教室 ●貼り絵ワークショップ

お問い合わせ (公財)静岡県文化財団・グランシップ 文化事業課
TEL.054-203-5714 MAIL.info@granship.or.jp